

令和４年度 自己評価表（校務分掌部・学部）

※評価基準：A＝達成できた、B＝おおむね達成できた、C＝ある程度達成できたが改善が必要、D＝達成できなかった

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
教務部	2②ICTを活用した授業と校務処理の推進。	・ICTを活用した校務処理の改善、充実を図る。	・校務支援システムの検証、活用、改善（出席簿、指導要録、施設予約等） ・校務処理のスリム化、改善（電子決裁、提出物等）	92%	99%	B	成果・課題	・電子決裁や電子受付が定着した。また、校務支援システムを使用した出席簿の管理についても定着しつつある。しかし、校務支援システムの管理者には制限があり、担当者に負担がある。
							改善策	・ICTを活用した校務処理には、引き続き取り組んでいく。校務支援システムの管理者権限を見直し、担当者の負担軽減を図る。
学習指導部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成。主体的・対話的で深い学びを意識した、授業改善。	・新学習指導要領に対応した年間や単元の指導計画を作成し、授業改善を目指す。 ・研究授業等を通して、主体的、対話的で深い学びを意識した授業の取り組みを目指す。	・年間指導計画、単元指導計画の様式の作成、管理 ・個別の教育支援計画の作成、管理（3観点での評価）	97%	98%	B	成果・課題	・全ての学部で新学習指導要領に対応した年間や単元の指導計画を作成することができた。次年度は授業改善に重点を置いて取り組む。指導計画の書式においては、統一されていない部分があるため検討が必要である。
							改善策	・主体的、対話的で深い学びを意識した授業を目指す取り組みを継続して行う。 ・統一されていない部分の指導計画の書式の検討をする。
児童生徒指導部	2①安全教育の推進。保護者・地域との連携による感染症、防災対策の徹底。	・避難訓練、引き渡し訓練等の各種訓練の実施、改善に取り組み、安全教育の充実を図る。	・避難訓練、引き渡し訓練等、各種訓練の見直し、実践 ・学校防災マニュアル、防火防災計画の見直し、運用 ・防災に関する研修の計画、実施	97%	97%	A	成果・課題	・様々な場面を想定した避難訓練や防火防災計画の見直し、防災に関する研修等を通して、児童生徒や教職員の防災に対する意識を高め、安全教育の充実を図ることができた。
							改善策	・引き続き各種訓練の実践・改善や各種マニュアルの見直しに取り組み、安全教育の充実を図っていく。
地域支援部	3②関係機関等との連携。児童生徒の豊かな生活を支える取組の推進。	・関係機関担当者との情報交換と地域のニーズを踏まえた情報発信の工夫を行う	・特別支援教育連絡会の継続。 ・地域のニーズを踏まえた研修内容を検討、実施。	95%	100%	B	成果・課題	・特別支援教育連絡会を通じての情報交換から、市教育委員会と連携し、研修会を行うことができた。 ・体験研修の周知が進み、希望者が増え受け入れの学級に負担が生じた。
							改善策	・今年度の会議の持ち方を継続。 ・年間を通した受け入れ可能人数を調査し、定員を設定するなど、ニーズにこたえつつ校内の負担軽減も図る
健康指導部	2①安全教育の推進。保護者・地域との連携による感染症、防災対策の徹底。	・感染症・熱中症対策を適切に行い、安心・安全な学びの環境を整え、対策と学習保障のバランスを図る。	・県の指針に沿った対策の具体的な提示と、教員・保護者へ確実な周知 ・充実した学びの場設定のための各学部・他分掌部と連携と、学習や食育環境の整備。	99%	99%	A	成果・課題	・国や県の指針に沿いながら、児童生徒の配慮に沿った感染症対策を思案し具体的に提示できた。 ・各学部、他分掌部と連携し、対策と学びのバランスを図りながら安全に進めることができた。
							改善策	・県の指針を基本に、校内の感染状況に応じて対策を見直したり、緩和したりしながら学びの環境を整えていく。
進路指導部	3①地域社会に開かれた教育課程へ向けて情報発信の工夫・充実。	・卒業後の自立に向けた本校の進路指導について、保護者、地域社会、関係機関のニーズに合った情報提供の充実を図る。	・保護者、地域社会、関係機関が知りたい情報内容についての調査、把握。 ・ホームページや斉メール等、情報発信方法の工夫。 ・ニーズに合った情報の提供。 ・保護者向け施設説明会、研修会などの実施方法の見直し。	92%	99%	A	成果・課題	・参加人数が集まらないことや、新型コロナウイルス感染症の拡大などの理由で3年間実施できていなかった施設説明会を、実施方法を見直して行った。また、進路だよりの内容を工夫し、保護者のニーズに合った情報提供を行った。
							改善策	・今後も、感染症対策など、方法を工夫しながら実施していく。また、進路アンケートを実施し、保護者のニーズの把握に務める。

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
渉 外 部	3②関係機関等との連携。児童生徒の豊かな生活を支える取組の推進。	・保護者や同窓会、地域のPTA関係団体との連携を深める。	・HP等を活用したPTA活動についての情報提供 ・保護者が参加しやすい行事の設定、参加方法の工夫 ・特教振事務局として保護者・他校PTAとの協力体制作り ・同窓会主体での支援体制作り	92%	97%	A	成果・課題	・新型コロナウイルス感染症対応を考え、分散開催や参加人数を減らしての行事の計画、オンラインの活用等で行事を実施し、保護者間の交流や他校との情報交換など行うことができた。PTA支部活動やバザーなど数年間でできていない活動もあり、引き継ぎの点で課題がある。
							改善策	・コロナ対応を工夫しながら、直接集まる機会のもちかたについて検討していくとともに、担当が変わってもスムーズに対応できるようマニュアル作成等引継ぎの仕方についての検討を行う。
特別活動部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成。主体的・対話的で深い学びを意識した、授業改善。	・各活動を通して児童生徒が学習の成果を十分に発揮し、成就感を味わえるようにする。	・児童生徒の実態や学習状況、新型コロナウイルス感染症流行状況を踏まえた活動の持ち方の工夫 ・自主的、実践的な活動に向けた学習内容の具体的な提示	97%	97%	B	成果・課題	・新型コロナウイルス感染症流行状況を踏まえ対応を行いながら各行事を遂行することができた。児童生徒も事前学習を通し、学習の成果を発揮することができた。しかし、今後、感染症対策をしながらどのように行事を計画するか検討が必要である。
							改善策	・「withコロナ」での行事の在り方、行事の精選などを考え、来年度行事について検討を行う。
情報部	2②ICTを活用した授業と校務処理の推進。	・GIGAタブレットおよび校務支援システムにおいて機能を効果的に活用し、デジタル化を推進する。	・Formsの効果的な利活用について ・Teamsの利活用について ・ZoomやTeamsを使ったオンライン授業 ・電子黒板の利活用について ・校務支援システムの機能の理解と活用	92%	99%	A	成果・課題	・昨年よりもタブレットを活用して授業や行事を行うことが増え、操作方法も慣れてきた。電子黒板を活用した授業に加え、アンケート、欠席等連絡のデジタル化ができた。しかしながら、不具合等への対処が情報部へ問い合わせが多いので、対処スキルを習得させるように研修を行う必要がある。
							改善策	・不具合の事例を収集し、ヘルプデスクやICT支援員さんと連携をして対処事例集などを作成したり、ICT研修の開催でスキルアップを図ったりして対応できるように検討する。
小学部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成。主体的・対話的で深い学びを意識した、授業改善。	自立活動の指導において、個々の実態を的確に把握し、ねらいを明確にした指導の実践へとつなげていく基盤を作る。	・実態把握における自立活動支援シート等の活用 ・これまで行ってきた自立活動に関する指導内容の収集と整理 ・学習指導要領で示されている自立活動の内容に基づいた指導内容一覧の作成	97%	98%	B	成果・課題	自立活動学習内容一覧表の作成を通じて、6区分を意識した指導内容の明確化と共有により、指導に役立てられている。個別の教育支援計画と自立活動支援シートの関連性についての理解が深まり、より有効活用できるとよい。
							改善策	個別の教育支援計画、自立活動支援シートと自立活動学習内容一覧表との関連性を明確にし、自立活動の視点をもとに実態把握や目標設定、評価につながるよう研修や授業研究を行う。自立活動についての理解をより深めながら指導の充実を図る。
中学部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成。主体的・対話的で深い学びを意識した、授業改善。	・各教科等合わせた指導における、単元指導計画に基づいた個に応じた評価の在り方と指導の反省を一体化し、授業改善を図る。	・個に応じた生徒の自己評価方法とその活用の仕方を検討、実践 ・「めあて」の示し方の工夫と「めあて」に準拠した評価の仕方の検討 ・評価に基づいた授業改善の実施	97%	98%	A	成果・課題	単元目標、学習活動に合った、生徒に分かりやすい「めあて」が入った単元指導計画の作成と「めあて」に準拠した習熟度別の評価項目が入った自己評価表の作成を進め、評価の結果に基づいて授業改善を行っている。更に生徒が自己評価しやすい評価方法の検討や授業中のやり方について検討が必要。
							改善策	生徒が自己評価しやすく「次は〇〇を頑張ろう」と思えるような自己評価表の作成を継続して実施する。
高等部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成。主体的・対話的で深い学びを意識した、授業改善。	・昨年まで新学習指導要領に沿って見直した年間指導計画等を検証する。	・研究授業の実施 ・研究会の実施 ・年間指導計画の修正 ・単元指導計画の修正	97%	98%	A	成果・課題	研究授業を行ったり、各作業班に分かれて研究を進めたりする中で、新学習指導要領に沿った学習内容を実践することができた。
							改善策	年間の研究授業に計画的に取り組み、学部全体で学習内容の見直しに取り組めるようにする。

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
創立 40周年 校内委員 会	1②創立40周年記念事業の円滑な実施。	・創立40周年記念事業を円滑に実施する。	・校内委員会の円滑な実施・運営 ・実行委員会の円滑な実施・運営 ・創立40周年記念式典の実施 ・創立40周年記念行事の実施 ・創立40周年記念誌の発行			A	成果・課題	・創立40周年記念事業を円滑に行うことができた。記念品作成や式典での児童生徒によるセレモニーなどみんなで作り上げる記念式典にすることができた。記念誌の発行、記念行事の実施についてもコロナ対応しながら円滑に行えた。
							改善策	・創立50周年へ円滑に引き継げるよう、記録などまとめて保管したい。
働き方 改革委員 会	4②働き方改革の継続。ワークライフバランスの推進、教職員の保健管理の充実。	・業務改善と働きやすい職場環境作りに努める。	・勤務時間の適正化 ・意識改革 ・業務改善（ICTの活用など） ・学校運営体制の充実 ・教職員間のコミュニケーションの円滑化と互いに支え合う雰囲気の醸成		B	B	成果・課題	・業務改善・業務の効率化への意識が上がった。先生方からの意見を取り入れて休憩時間の始めと終わりにチャイムを鳴らしたり、表示の整理を行ったり、行事の見直しを行ったりすることができた。
							改善策	・さらに働きやすい環境づくりに努める。